

## 生命(いのち)をテーマにアート作品を制作する

六村眞規子

### はじめに

私は生命(いのち)をテーマに、主に繊維素材を使用して作品を制作し、発表する表現活動をしています。「共生のひろば」の地域の自然・環境・文化を自ら学び伝える活動を行っている人々が、お互いの活動を知り、活動の質をあげ、新たな展開のヒントを得る場との趣旨と、開催 20 周年でより幅広く、との呼びかけに魅かれ参加しました。

### 生命(いのち)のイメージ

ある時土の上に屈んで、じっと地面を見つめていると、足の踏み場もないほどたくさんの小さな虫が見えてきました。

そして想像は、地中の肉眼では見えない無数の微生物の存在にめぐり、大地は生命の集まりだと感動しました。私の足下にもたくさんの生命が鼓動し、遠くに眺める山々も様々な生命がリズムを重ねて、波打つように動いているように感じました。この時私の中で、生命がはっきりとしたイメージを持ち始め、作品のテーマとなりました。



### 作品の素材と技法からテーマへ

染色した羊毛を積み重ね、麻糸やフェルトの太い紐などをその間に挟んで、全体に石鹼を溶いたお湯を掛けて、手で揉んで縮絨(フェルト化)させます。羊毛繊維は、熱とアルカリ、振動を加えることで縮絨が促されます。出来た固い板状のフェルトを 1~2 cm の幅で切って、切り口に積層が現れたフェルト片をたくさん作ります。積層が見えるようにフェルト片を貼り合わせて、作品を作っていきます。

羊毛繊維の細かな 1 本 1 本が表面に見え、その集合体が細胞のような一つのフェルト片となり、それらが集まって動きを生み出します。制作しながら、自分の体内や動植物内部で脈動する細胞を思い浮かべたり、その動きが星々の運行のようにも感じられ、大きな生命体である宇宙を連想したりしています。生命のイメージをミクロとマクロの世界に行き来させながら、作品を作っています。



## 共生のひろばで発表して

何人かの方から作品の下絵は作るのかとの質問を受けました。実は綿密な下絵ではなく、ラフスケッチを描き、テーマを思いながら、用意したフェルト片をライブ感覚で繋ぎ合わせています。また最初のラフスケッチの段階で、この場所にこのような形状で設置しようと計画をすることが多いです。作品は1～2cmの厚みを持った布状をしているので、壁面や天井に添わすように貼ったり、床に置いたり、折曲げて設置することもできます。自分が展示空間からインスピレーションを得て、作品を作り始めていることを、改めて意識しました。私にとって展示空間が作品の重要な要素なのだとわかりました。

では、固定された展示空間がなければならないのかですが、そうではなく、様々な空間で設置してみたい、まずは空間を探してみようと思っています。屋内はもちろん、屋外でも。

そしてもう一つ、子どもたちが発表していた作品に近づいてきて触れていたことから、私が展示空間に設置した作品を、子どもたちに自由に移動させてもらう、または一緒に設置するなどのワークショップを行ってみたいと思い始めました。子どもが持ち運べる大きさの作品パーツにすれば、素材は羊毛フェルトなので柔らかく安全です。作品が動き、変化していくのも生命の表現です。子どもたちと一緒に、子どもたちから学ぶことが出来そうな予感がします。

新たな展開に向かって表現活動を続けていきたいと思っています。

